

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0171100191), 法人名 (メリーライフ株式会社), 事業所名 (グループホーム里の家千歳・ラベンダー), 所在地 (千歳市若草1丁目18-2), 自己評価作成日 (令和3年9月1日), 評価結果市町村受理日 (令和3年9月1日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、愛のある暮らしの中で、楽しく生涯を送れることを願い、信じ合える、希望ある福祉を創造し、社会に貢献していくことをモットーにしています。具体的には、ご自宅での生活状況が、入居しても延長したものとなるよう配慮しながらご自宅に近い環境となるよう努め支援させて頂いています。馴染みのある家具や道具に囲まれながらの食事作り、畑仕事、地域の交流などで、生活のリズムを通して、忘れていた昔の自分を取り戻し、穏やかに日常が過ごせるよう支援に努めております。また、職員一人ひとりが、入居者様と生活を共にしていることを常に意識し、ゆっくりと関わりをもち、落ち着いた環境でコミュニケーションを図っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0171100191-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年7月26日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Empty table for external evaluation comments.

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and evaluations.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体で理念を共有しており、日頃から管理者リーダーを中心に理念の共有や実践に向けて取り組んでいる。ユニット会議や申し送り時など折にふれ理念や方針・目標等を話す機会を作っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の方とは日頃から気軽に挨拶を交わし、地域行事への積極的な参加、定期的なボランティアの来設等により様々な世代との交流がある。新型コロナウイルスの影響により、現在は活動自粛している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集まりや運営推進会議では、入居者のプライバシーに十分配慮しながら認知症ケアの啓発に努めている。現在は、新型コロナウイルスの影響により活動は自粛している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の会議で役割や取り組みについての理解が深まっている。現在はコロナウイルス感染予防の一貫として事業所内の職員を中心に開催し、関係者には事前の連絡や文章で伝達を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に本部職員、管理者が中心となり対応している。事故が起きた際の状況報告、運営推進会議で話された内容報告などを利用し、事業所の実情やケアサービスの取り組み状況をつ伝えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員が正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束廃止適正化委員会を設置し、2ヵ月に1度会議を行い、身体拘束の内容を学ぶ機会を設けている。また日頃から入居者対応に改善すべき部分はないかを振り返るよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2ヵ月に1度身体拘束廃止適正化委員会の研修において、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持っている。日常業務の中でも定義や内容について説明を行い、日頃の対応の振り返りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修や外部研修などで制度の内容について学ぶ機会を持てるようにしている。研修に参加できなかった職員にはユニット会議などでその内容を周知し、理解を深められるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にはホームの見学案内を実施し、生活の様子やケアの内容などを説明している。契約前に不安や疑問点を尋ね、十分な時間をかけて説明をし理解・納得を得るように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族が意見、要望を気軽に話せる関係作りに努めている。家族の来設時や定期的な家族への電話連絡・SNSの使用などで意見を確認している。また意見箱を設置し迅速な対応に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見は日常業務の中で聞く機会を設けている。内容について本部で検討し、必要と判断されたものについて反映されている。全ホームが集まる会議は新型コロナウイルスの影響により自粛している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の経験年数や資格取得状況に応じて賃金に反映し、日常業務の中で、職場環境や条件の意見を聞き、個別の助言や指導を行うことで、意欲や能力を引き出している。また、介護職員処遇改善加算の申請も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修の受講を推進し受講者以外の職員にも後日会議での報告や資料配布などにより情報共有に努めている。日常業務の中で職員一人ひとりの力量にあわせた指導・トレーニングを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村主催の地域推進会議や、事業所が加盟している協議会が主催する研修会などに参加しており、同業者との交流を図ることが出来ている。職員不足や新型コロナウイルスの影響により参加することは少なくなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の家庭訪問や見学案内の際には、本人にリラックスして頂けるように努め、家族や書類などからの情報も併せ、困っていること、不安なこと要望などを汲み取り、安心の確保に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や本人の不安や要望、入居の至る経緯などについて時間をかけて話を聴くようにしている。初期の段階で不安の解消、ニーズの把握をし、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との面談の際に、現状や要望を聞き取り、「その時」に必要な支援、優先時順位などを見極め、スムーズに対応出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に過ごすことで、お互いに支えあう関係性を築いている。家事参加や日常生活のなかで、昔ながらの風習や知恵などを教えていただき、家族や仲間のように暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や定期的な電話連絡、SNSを活用し、生活の様子や、必要な支援、職員の思いなどを伝えている。その際には家族の意向、入居者との関係、これまでの経緯などを把握し、本人を共に支えていけるよう意見や要望を汲み取っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃の会話の中で馴染みの人や場所の把握に努め、関係の継続を支援している。新型コロナウイルスの影響で馴染みの場所に行くことは控えているが、電話や手紙で馴染みの人との関係が継続できている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性や相性を把握し、テーブルや席を決めている。入居者同士が励ましあい、支えあう場面もみられる。訪室したり、ソファで一緒にテレビを見る機会を作り、一人ひとりが孤立せずに関わる支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時には事業所側で本人の状況に適した次の行き先について責任を持ち支援している。退所後も経過をフォローし家族からの近況報告もあり、相談に乗るなど関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での関わりや、家族の情報などにより一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。意思疎通が困難な方には、本人の立場で考え、気持ちを汲み取る姿勢で接し検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の家族や関係者・書類などからの情報や生活をして行く中で本人との関わりで得た情報収集により、生活歴や馴染の暮らし方、生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の関わりの中での観察や、バイタルチェック、申し送りなど様々な側面から現状の把握に努め、入居者の生活リズムの変化に柔軟に対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議や日頃のカンファレンスを行い、本人本位の介護計画を作成するよう努めている。入居者と家族の希望を確認し、話し合った内容の意見やアイデアを介護計画に反映出来るよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日常の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別の記録に具体的に記入し、職員間で情報を共有している。職員個々の気づきや工夫は、日頃の実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者や家族の状況の変化などにより意向が変わっても、その時々ニーズに対応し、出来るだけ柔軟で多様な対応を取り支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアとの交流や消防、民生委員との交流により入居者と様々な接点を作る事が出来ており、協力体制が築けている。現在はコロナウイルスの影響により、活動を自粛している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関の月2回の訪問診療と週1回の訪問看護、24時間連携体制をとり、適切な医療を受けられるように支援している。個別の希望がある場合は希望に添った医療機関を受診している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の体調の変化や生活の状況を訪問診療の事前に書面で報告しより詳しい情報を伝え相談している。状況に応じた個別のアドバイスを受け、医療面での支援が適切に行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入居者のそれまでの経過や普段の様子、心身の状況、ケアの方法などの情報を伝え、安心して治療が受けれるよう支援し、早期退院が出来るよう努めている。普段から連携を取り病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期のあり方については出来るだけ早い段階で本人及び家族の意向を確認し、事業所として出来る事を十分に説明している。事業所での看取りを希望する際には、医療関係者からの助言・話し合いにより、方針の共有を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応マニュアルを整備し、緊急時ファイルはすぐに手に取り、いつでも見られるようにしている。職員一人ひとりが危機管理を持ち、実践力を身につけるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を実施し災害対策のマニュアルを理解し、備蓄品の確認も行っている。現在はコロナウイルスの影響により、全体での避難訓練は規模を縮小しリーフレットの配布や口頭での確認作業を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーの確保について意識している。不適切なケアにならないよう言葉使いや声のトーンに気を配るように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの性格に合わせ声を掛け、聞き取りの工夫をし、自己決定の支援をしている。表情や反応からも思いを汲み取れるよう関わりを深めるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活のため協調性を持ちながら、一人ひとりのペースや体調、気分、したい事等を確認し、希望に添って支援している。個性を活かすケアの実践、柔軟で臨機応変な対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい自己表現ができるおしゃれを支援している。起床時や入浴時に入居者と一緒好きな服を選んだり、能力・状態に合わせた支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりが食事を楽しみになるようメニューの工夫や家事参加の働きかけをしている。家事参加が難しい方に対して、雰囲気味わえるような関わりを大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分について、個々の摂取量を毎日記録し、常に把握している。一人ひとりの状態に応じた食事・水分・間食の提供をし必要量の確保に努めている。医療機関からもアドバイスを受け支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後、一人ひとりの能力や状態に応じた口腔ケアを行い、口腔内の状態観察、清潔保持に努めている。口腔ケアティッシュやスポンジなども使用し、夜間は義歯のポリデント洗浄・保管している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状況を把握し、一人ひとりの排泄が自立に向かうように支援している。個々の状況に応じたトイレ誘導・下剤の調整などにより失禁が減り、トイレでの排泄が増えたケースも多い。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を細かく把握し、一人ひとりに合わせ食事・水分の工夫や運動の働きかけをしている。下剤は種類・量・服用時間・効果等の面から検討し、一人ひとりの状況に応じて便秘予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は入居者の希望や体調、年齢等に応じ、曜日や順番を決めずにおこなっている。湯舟が苦手な方はシャワーや清拭で清潔を保っている。個別入浴なので職員と会話をしながらゆったりとリラックス出来るような関わりを心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその日の活動量、体調、前日の睡眠状況などに応じて適度な休息を取り、安眠出来るよう支援している。不眠傾向時には原因を探り、安眠に繋がるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は全職員が把握に努め、服薬管理は法人で取り決めた基本事項を守り、投薬は複数の職員で確認し誤薬防止に努めている。症状の変化や副作用等について薬局のアドバイスを受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や得意な事等を把握し、楽しみや喜びを見い出し、個性を表現しながら余暇時間や生活の中で活躍出来る場面を作っているよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に応じて散歩や買い物等の外出支援や他ユニット訪問等で気分転換や交流の機会を作っている。現在はコロナウイルスの影響により、日常的な外出や交流は控え、体調や天候などに配慮しながらホームの畑や花壇を見に短時間の外出を支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて金銭の所持・使用が出来るよう支援している。自分のお金で買い物することにより生活意欲の向上や満足感に繋がっている。所持が困難な方には職員が買い物支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的にご家族や友人と連絡を取る事で、安心感や楽しみに繋がっている。家族様や知人との電話、手紙でのやり取りを取り次ぎ、必要な支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内は家庭的で明るく居心地の良い雰囲気作りに努めている。共用空間は清潔保持に努めている。席替えや家具の配置替え、季節の飾り付け等をする際には、入居者にとっての快適さ・安心感などを尊重して行うようにし、常に入居者の目線で見た居心地の良さを考慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファやテーブル、椅子を複数設置し、好きな場所で好きなように過ごせるよう配慮している。気の合う仲間と関わったり、一人になったり、それぞれが快適な居場所を作れるよう努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居前から使用していた馴染みのものを持ち込んで頂いている。家族やペットの写真を置いたり、塗り絵や折り紙などの作品を壁に貼るなど、その人らしさを活かした居心地良い空間を作り、不安や混乱なく生活できるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの状態や能力に合わせた介助を行い、手摺り等の設置や環境改善等により、残存能力を活かして自立した生活が送れるよう支援している。		